

双ヶ丘中だより



京都市立双ヶ丘中学校 1/23 第26号 文責 林

学校教育目標 「自らの未来を切り拓く、心豊かな生徒を育成する」

百人一首大会

「瀬をはやみ 岩にせかるるたきかわの われても末に逢わむとぞおもふ」「これやこの 行くもかへるもわかれては 知るも知らぬも逢坂の関」……。寒い体育館内に読み札を詠む先生の声が響きます。するとあちこちから「ハイ」と元気な声が聞こえてきます。百人一首大会の光景です。寒い体育館ですが、生徒の熱気を感じます。1月17日（火）は1年生、1月19日（木）は2年生の百人一首大会が行われました。4～5人の生徒が向かい合って取り札を取るのですが、生徒の中には、下の句が読まれる前に手を伸ばす生徒もいて驚きました。冬休みの課題として百人一首を覚えてきて、クラスで練習も何回かしてきた成果があらわれていました。最後は、それぞれが取った枚数を合計してクラスの合計を計算して、順位を競いました。

百人一首は、昔から行われている伝統あるものです。生徒が伝統あるものに親しんで伝統を受け継いでいくことは大切です。百人一首に限らず、日本の伝統を大切に受け継いでほしいと願っています。



防災の日

1月17日（火）は、防災の日でした。防災に日は、阪神・淡路大震災を受けて定められました。

1995年1月17日の午前5時46分に阪神・淡路大震災は起こりました。京都でも大きな揺れを感じました。揺れでびっくりして起きた後、隣で寝ていた子どもにおおいかぶさったことを覚えています。夜が明けて、空からの映像がテレビで流されるとそこには信じがたい光景が写っていました。あちこちで倒壊した家屋、街のいたる所からあがる火の手、横倒しになった高速道路と見慣れた神戸の街が変わり果てていたのです。そして、避難する多くの人々も見られました。犠牲者は6400名を超える未曾有な災害でした。それから22年がたち、現在の神戸市民の半数以上が阪神・淡路大震災を知らないということです。記憶の風化が心配されています。風化させないためにも語り継ぎ、防災の意識を高めていかなければなりません。いつ、どこで大きな地震が起きるかわからないのです。

1月18日（水）に全校生徒が体育館に集まり、消防署の方から体育館にいる時に、もし地震がおきればどうすればいいのか、その方法を教えていただきました。低い姿勢になり頭を守ることが大切とのことでした。その後、1年生は担架の作り方、2年生は「煙中ハウス」の体験、3年生は消火器を使用するの消火体験を消防署の方から指導してもらいながら行いました。今回の経験をいざという時に役立ててほしいです。中学生は、災害が起きた時は「助けてもらう側」だけでなく「助ける側」にもなることが必要です。また、「自分の命は自分で守る」意識をもつことや非常食・飲み水の準備、家族で避難場所の確認をするなど日頃から防災の意識をもってください。ご家庭でも防災について話題にいただき、親子で話し合ってもらえることを願っています。